

June 2015

vol. 238

今月のトピックス

台湾国際医療推進の取り組みと発展の方向性
日本企業から見た台湾

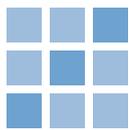
～台湾国際藏壽司股份有限公司総経理、
西川健太郎氏インタビュー～
独自の店舗管理システムを台湾展開するくら寿司

台湾進出ガイド

移転価格税制における
財政部調査の傾向

台湾マクロ経済指標
インフォメーション

【 今月のトピックス 】



台湾国際医療推進の取り組みと発展の方向性

台湾では2007年からメディカルツーリズムの推進が開始されており、優れた国際医療サービスを提供している。主に衛生署衛生福利部が中心となり「医療サービス国際化旗艦計画」に基づき、台湾医療の国際化を進めている。2014年末時点で台湾において受診した外国人患者数は既に26万人に達し、台湾が当分野において一定の地位を確立したことを示している。今後は、更に多角的な医療環境の発展に向けた取組が行われていく予定である。本稿では、台湾の国際医療分野の推進と発展状況について紹介する。

台湾の優れた医療環境及びサービス

台湾には507ヶ所の医療機関及び20,000ヶ所の地域基幹病院、米国の医療品質認証システムに基づいた独立機関である財団法人医院評鑑暨医療品質策進会(TJCHA)があり、すべての医療機関は3年ごとに実施される厳格な審査を経て、医療スタッフ、医療技術、医療設備、サービス及び患者ケアの全ての面において優れた水準を維持している。また、16ヶ所の医療機関が国際的な医療分野の基準設定・認定機関であるJCIから認証を取得している。

台湾政府のこれまでの取り組み

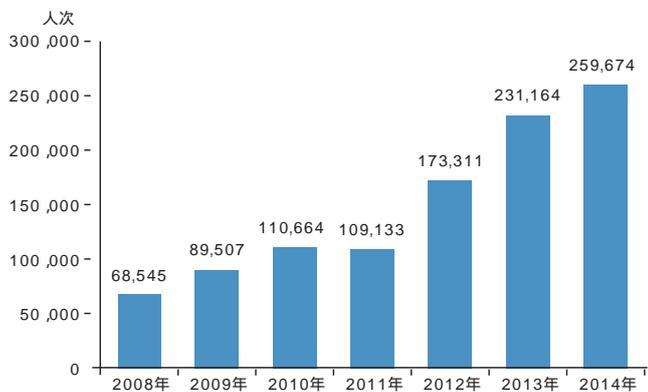
2007年に策定された「医療サービス国際化旗艦計画」では、各関連部会の連携により当計画を取りまとめるチームが編成され、推進するサービス内容及び対象医療機関が選定された。2009年からは「健康介護グレードアップ方案(健康照護升值白金方案)」により政府資金が投入され、医療サービス産業(医療介護及び長期介護)、医療付加価値産業(健康促進産業、スマート医療サービス、国際・両岸医療及び国家衛生安全)及び医療関連製造業(バイオテクノロジー、医療介護、ICT・光電産

業)が推進されている。2010年には、国際医療用の病床設置の申請が開放され、また中国人を含む外国人の医療ビザ申請の簡素化や国際医療に関する広告の掲載・放送・多言語広告に関する規制緩和等、海外の患者を受け入れる体制づくりが進められている。同時に医療サービスの国際化に向けた管理事務局も産学官連携プラットフォームとして設置されており、2013年には空港4ヶ所(台北松山空港、桃園空港、台中清泉崗及び高雄小港)に国際医療のサービスカウンターを5カ所設置している。更に、自由経済モデル区で推進している国際健康産業園区における国際医療、医療サービス及び製造業の連携を強化し、医療産業の更なる国際化を図っている。

台湾国際医療推進の成果

台湾で医療サービス外国人患者数は、2008年の68,545人から徐々に増加し、2014年には既に259,674人に達しており、年間平均成長率(CAGR)は25%となった。このうち中国及び東南アジアからの患者が最も多い。次いで日本、韓国等の北東アジア及び北米からの患者が多く、患者数の増加だけでなく、幅広い国籍の患者に利用されるようになってきている。

図1 国際医療受診者数の推移



出典 台湾衛生福利部の公開資料よりNRI作成

台湾医療機関における国際医療推進事例

現在、台湾の51ヶ所の医療機関に国際医療を担当するチームが置かれている。具体的には、北部26ヶ所、中部11ヶ所、南部11ヶ所、東部3ヶ所の医療機関で、これらは全て地域病院や医学センターに相当する医療機関である。また、こうした規模の大きな医療機関の他に、個別の専門分野を持つクリニックもJCI認証を取得しており、眼科、美容、アンチエイジング、歯科、人間ドック等のサービスを提供している。

政府による積極的な後押しに加え、個別の医療機関が世界的に著名な海外の医療機関と連携しているケースもある。例として、長庚医療グループは、米国のMD アンダーソン癌センターやジョンズホプキンス病院の頭蓋顎顔面治療センター、フレッド・ハッチソン癌研究センターと連携している。また、彰化基督教病院グループは、パプアニューギニアや中国の四川、インド、スリランカ、ミャンマー、外モンゴル、ネパール、ベトナム等の国や地域において医療救助連携を行っている。その他にも、外国籍の医師を受け入れ研修を行っている事例として、長庚医療グループが韓国の200名以上の整形外科医師を対象に研修を実施している。このように台湾の医療技術は世界に広く展開しており、こうした状況に伴い、海外患者が台湾で医療サービスを受けたいというニーズが増えつつある。

同時に、台湾の医療グループが中国及び東南アジアに拠点を構えるケースも増えてきている。現地での知名度の向上を図る他、台湾で治療した患者が帰国後も看護サービスを受診できる体制を構築することが狙いである。長庚医療グループは、中国のアモイ及び北京に分院を設立しており、その他にも、聯新医療グループは、上海に禾新病院を設立する等、台湾国際医療推進における更に一歩進んだ成果が現れている。

今後の台湾国際医療発展の方向性

台湾は、今後も引き続き国際医療推進を強化していく予定で、特に台湾が優位性を持つ頭蓋顎顔面外科手術、生体肝移植、人工関節置換・脊髄手術、心臓病検査・治療、マイクロサージェリー、人工授精、美容手術、インプラント・高級人間ドック等の分野に注力する方針である。例えば、頭蓋顎顔面外科分野では東南アジアで初となる頭蓋顎顔面外科センターがある。また、世界をリードする卵子凍結保存技術やアジアで初となる心臓移植手術の成功事例等もある。

表1 台湾医療の優位性及び具体的成果

| 医療分野 | 詳細 |
|-------------|--|
| 頭蓋顎顔面外科 | ・東南アジア初の頭蓋顎顔面外科センターがあり、専門医及び専門チームが揃う。 ・口唇裂・口蓋裂の治療成功率は100%。 |
| 人工授精 | ・世界をリードする卵子凍結技術を有し、人工授精による妊娠率は37.7%、出産率27.7%に達し、費用も他国より低い。 |
| 臓器移植 | ・1997年から2005年に台湾で実施された肝臓移植手術で術後5年の生存率は米国より高い。術後1年の生存率は95.1%、5年は91.2%に達する。 ・長庚記念病院で初となる児童の肝臓移植を実施、これまで400件以上の事例を蓄積。 ・1968年台湾大学病院でアジア初の腎臓移植を実施、それ以降台湾最大の肺移植センターとなっている。 |
| 心血管疾患・カテーテル | ・アジアで初の心臓移植が台湾で実施され、冠動脈バイパス手術の成功率は99%、合併症発生率は1%以下。 ・世界で最もハイレベルなCTスキャン装置について、現在世界で僅か20台のうち台湾は3台を導入。 |
| 人工関節置換 | ・豊富な人工関節置換手術の経験があり、毎年約2万件の臨床経験を蓄積。 ・バイオマテリアル研究の分野で進んでおり、アジア人に適した関節材料を開発。医療技術や国際知名度、価格等の面でも他国と比べ優位性を有する。 |
| マイクロサージェリー | ・既に1万件以上のマイクロサージェリーを実施、整形手術の世界的賞も受賞しており、台湾の整形技術が世界的にも評価されている。 ・腎臓等の臓器の一部或いは全切除及び新生児の手術にも応用。 |
| インプラント | ・先進的なインプラント手術を導入、治療時間を大幅に短縮、安全性に優れ、術後の痛みや腫れを低減。台湾は人工歯根製品及び技術も有する。 |

出典 NRI作成

また、医療機関内の環境についても多角的に整備が進んでいる。例えば多言語に対応した設備やスタッフの配置、並びに外国人にも利用し易い医療及びサービス等に注力しており、医療サービスのソフト面における刷新も継続的に推進している。将来的に台湾の国際医療は、単に患者数を増やすということだけでなく、提供するサービス面についてもより一層多角的に発展していくことが期待されている。

(黄慧慈:h3-huang@nri.co.jp)